

令和4年12月号 (2022年11月撮影)

1. ムラサキツバメ【紫燕】 (チョウ目・シジミチョウ科)

開長が4センチ前後の小さな蝶です。照葉樹林帯を中心に、南はマレー半島、東は台湾、日本まで分布する。南



方系のチョウで、日本でも九州南部などでは個体数が多いようです。最近の温暖化で分布域を北へ広げてきているようです。幼虫の食草はマテバシイ等で、マテバシイは公園や街路樹にも植えられており、それ分布域を広げている要因の一つのようです。また熱帯魚のように死滅回遊のように来ている可能性もあるようです。

2. ムラサキシジミ【紫小灰蝶】 (チョウ目・シジミチョウ科) (2017年6月撮影)



開長は約3~4cm程度の小さな蝶です。上の写真のムラサキツバメとよく似ている蝶ですが、ほんのちょっとだけ違いがあり、後翅に尾状突起があるほうがムラサキツバメになります。両方ともきれいな青色の蝶です。シジミチョウの仲間はアリ共生する種類が多く、アリが好む分泌液を幼虫がありにあたえ、外敵から守ってもらったりしています。不思議な生態の昆虫です。幼虫の分泌物により、アリの脳内ドーパミンを減少させ、アリを攻撃的にし、巣に戻らないようにさせ、自分の護衛をさせるそうです。すごい関係性ですよー。